

## ○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、はん用・生産用・業務用機械が半導体関連等で好調、電子部品・デバイスが自動車向け分野等で好調など、堅調に推移。設備投資は、受注増加にともなう生産性向上や人材不足解消のための省人化投資等で積極的な動き。雇用は、有効求人倍率が高水準で推移。個人消費は、高額商品やインバウンド消費が好調な一方、天候等の影響により衣料品が不調。

## ○生産

- ・はん用・生産用・業務用機械：半導体関連や自動車関連工作機械等を中心に東北、関東、東海、北陸、近畿、中国で好調。
- ・電子部品・デバイス：自動車向けを中心に東海、北陸、近畿で好調。
- ・輸送機械：自動車部品や乗用車等を中心に東海、近畿、中国、九州で好調。

## ○設備投資

- ・製造業：工場の新設や生産ラインの増強に加え、受注増加に向けた生産性向上の投資や人手不足対策としての合理化・省力化の投資がみられ、多くの企業で積極的な動き。
- ・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗改装等への投資に加え、一部に人手不足へ対応するための省力化・自動化投資への動き。

## 平成30年4－6月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

### ○雇用情勢

- ・製造業：技術者や経験者の不足が顕著で、人材の確保が困難。  
正社員への切り替え、残業時間削減、短時間勤務の導入、多様な人材の活用、省力化推進の動き。また賃上げの動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足。省力化の動きや、高齢者・外国人等の多様な人材の活用が見られるほか、人材確保のための処遇改善の動き。また賃上げの動き。

### ○個人消費

- ・百貨店・スーパー：百貨店は、化粧品や免税品、高額品の売上好調。  
スーパーは、天候不順により衣料品が不調。
- ・コンビニエンスストア：カウンター商材や中食向けの総菜が好調。
- ・ドラッグストア：新店効果に加え、高付加価値商品が好調。
- ・家電大型専門店：季節家電や白物家電、携帯電話を中心に高単価製品が好調。
- ・乗用車販売：新型車効果は一巡し一服感がある。
- ・観光：外国人観光客増加に伴い、インバウンド消費は引き続き好調。

## 4-6月期企業の声

	企業の主な声
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体・自動車関係は好調が続いており、フル生産でも追いついていない。(業務用機械／近畿)</li> <li>・中国系のスマートフォンメーカーが調子を上げてきており、生産は増加傾向。(電子部品・デバイス/関東)</li> <li>・工作機械は自動車関連が国内・海外向けに好調で高水準を継続。(生産用機械／北陸)</li> <li>・世界的なSUVの生産は好調を継続。(輸送用機械／九州)</li> </ul>
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術者不足解消と生産性向上を図るため、自動溶接ロボットを導入する。(生産用機械／北海道)</li> <li>・量産体制に向けた製造設備の整備に加え、省力化、省人化、省エネ化に資する投資を行う。(繊維／北陸)</li> <li>・総菜センターをオープンし、店舗の総菜、肉類の加工を集約した。(スーパー／沖縄)</li> <li>・インバウンド対応のための設備を整備。(百貨店／中国)</li> </ul>
雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発を担当する技術職に不足を感じている。(電気機器／中国)</li> <li>・外国人実習制度の再開を検討。(繊維／四国)</li> <li>・人材確保のためベースアップを実施。ここ数年でベースアップ率は徐々に上がっている。(スーパー／近畿)</li> <li>・サービス業は人手不足。正社員を採用したいが集まらない。(通販／関東)</li> </ul>
消費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候等の影響で衣料品の販売に厳しい環境だった。(衣料品専門店／関東)</li> <li>・新型車効果は薄れてきている。(輸送用機械／東北)</li> <li>・季節家電や白物家電が好調。(家電量販店／東海)</li> <li>・インバウンド客により、乗客数、売上金額は増加。(運輸／九州)</li> </ul>
最近のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国による鋼材やアルミニウムの輸入関税引上げについては、現地生産拠点の資材調達に影響がでている。(輸送用機械／関東)</li> <li>・訪日観光客は、アジア系に加えて欧米客が多くみられる。団体ツアー客が減り、個人客(FIT)にシフト。 (旅館／近畿)</li> <li>・麻しん(はしか)の風評により、来客数が減少、客単価も若干ダウンした。(ホテル／沖縄)</li> </ul>

# 北海道

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉                  生産は、電気機器が減産するものの、鋼材や自動車部品の増産から、持ち直しの動き。個人消費は、免税売上や飲食料品が堅調で持ち直し。観光は、外国人観光客の増加等から好調。</p>			
<p>個別の動向                  (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は、持ち直しの動きがみられる                  ✓ 生産体制の見直しから電気機器が減産。                  ✓ 一方、自動車や建設機械向け需要増から鋼材、生産ラインの増設から自動車部品が増産するなど、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○設備投資は、増加している                  ✓ 30年度は、工場の新設、生産能力増強投資や人手不足対策のための省人化投資などから、製造業・非製造業ともに前年度比で増加。                  ✓ 製造業では、食料品を中心に金属製品や生産用機械などで、工場の新設や生産能力増強投資等。                  ✓ 非製造業では、小売で新規出店、運輸で物流施設の新設、宿泊でホテルの新設等。</p> <p>○雇用情勢は、改善している                  ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。                  ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。                  ✓ このため、新規採用や中途採用、派遣社員に加え、高齢者、女性、外国人の活用を実施。また、残業時間の削減、年次休暇の取得促進のほか、賃上げ、正社員への登用等による待遇改善を行い、人材の確保・定着を図る。</p> <p>○個人消費は、持ち直している                  ✓ 百貨店は、化粧品等の免税売上や国内富裕層向け高級ブランド品が好調。スーパーは、飲食料品が堅調なもの、衣料品の不調から売上が減少。                  ✓ コンビニエンスストアとドラッグストアは、店舗数の増加傾向が続く。                  ✓ 新車販売は、軽自動車は安全性能の高い車種が堅調なもの、普通乗用車や小型乗用車は前年の新型車効果が一巡。                  ✓ 観光は、国際線の新規就航や増便に伴う外国人観光客の増加などから、引き続き好調。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数                  (H22=100)                  ※季節調整値</p>	<p>有効求人倍率                  ※季節調整値</p>	<p>百貨店・スーパー                  販売額(前年同月比)</p>	<p>コンビニエンスストア                  販売額(前年同月比)</p>
	<p>99.3(95.2)</p>	<p>1.14(1.19)</p>	<p>▲0.4%(1.7%)</p>	<p>0.2%(2.3%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 東北

<p>全体景況</p>	<p>＜一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している＞          生産は、半導体関連が高水準で持ち直しの動き。個人消費は、衣料品等がふるわず足踏み状態。設備投資は、需要拡大・自動化等で持ち直し。</p>			
<p>個別の動向  <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は持ち直しの動きとなっている          ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に一服感が見られる。          ✓ 生産用機械は、半導体関連、自動車向けで高水準。          ✓ 輸送機械は、底堅く推移している。          ✓ 情報通信機械は、民生用機器により弱い動きが継続。          ✓ 生産の先行きは、「変化なし」とする見通しが多い。</p> <p>○設備投資は持ち直している          ✓ 平成30年度の設備投資計画は、前年度比で「増額」とする企業が約4割、「ほとんど変化なし」とする企業が約3割と、昨年度と同等以上の投資を計画する企業が多い。          ✓ 製造業では、新製品・需要拡大対応の前向き投資や、省力化・自動化の計画が目立つ。非製造業では、小売業の新規出店、宿泊業の省力化システム導入計画が見られる。</p> <p>○雇用情勢は改善している          ✓ 平成30年5月の有効求人倍率は1.52倍、新規求人倍率は2.02倍となっており、それぞれ、高水準となっている。          ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業が前期とほぼ同様に、約6割となり人手不足感が顕著。          ✓ 人手不足に関しては、人手不足対策として海外から技能実習生を受け入れる予定、パート・アルバイト中心にほとんど応募がない等の声が上がっている。</p> <p>○個人消費は足踏み状態となっている          ✓ 百貨店・スーパーは、仙台圏の百貨店を中心に高額品にも動きがみられたものの、不漁や野菜の相場安などにより飲食料品がふるわなかったことに加え、気温変動が大きかったことにより衣料品もふるわなかった。          ✓ コンビニエンスストアは、このところ弱含んでいる。またドラッグストアは、新店効果などにより堅調。          ✓ 新車販売は、減少している。          ✓ 売上金額の先行きについては、「不変」とする企業が多い。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数  <small>(H22=100)  <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center;">107.4(99.6)</p>	<p>有効求人倍率  <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.52(1.51)</p>	<p>百貨店・スーパー          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲2.3%(▲0.7%)</p>	<p>コンビニエンスストア          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲1.7%(▲0.5%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 関東

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、一般機械が好調など持ち直しの動き。雇用情勢は、着実に改善し、企業は多様な人材を活用。個人消費は、天候の影響がみられたものの持ち直しの動き。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は持ち直しの動きがみられる          ✓ 輸送機械は、販売奨励金の上昇や原材料の価格上昇の影響があるものの、海外向けSUV等の人気車種や国内向け軽自動車販売が底堅いことから、概ね堅調に推移。          ✓ 一般機械及び電気機械は、アジア向け半導体・FPD製造装置、海外向け建設機械の需要が増加し、好調に推移。          ✓ 電子部品は、自動車、産業機器やスマートフォン向けなどの分野で堅調。          ✓ 鉄鋼業は、自動車向け、オリンピック・パラリンピック関連や都市再開発関連の需要が堅調に推移。</p> <p>○設備投資は前年度を上回る見込み          ✓ 製造業では、維持更新に加え、堅調な需要を背景とした新工場の建設や生産ラインの増強、人手不足解消のための生産性向上設備の導入計画がみられる。一方、中小企業を中心に、前年度の反動から今年度は投資が減少するとの声も。          ✓ 非製造業では、新規出店や店舗改装が小売業で計画されているほか、業務効率化のシステム投資が多くみられる。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善している          ✓ 製造業では、引き続き技術職や経験者及び現業部門における人員が不足。特に中小企業では人材の確保が難しい状況。非製造業では、技術者や小売業でのアルバイト等が不足。          ✓ 人材確保が難しく、生産性向上や外国人等多様な人材を活用する動き。賃金等労働条件改善の意識が高まっている。</p> <p>○個人消費は持ち直している          ✓ 百貨店では、天候の影響による季節商材の需要のずれから衣料品を中心に低調傾向。中間層の消費マインドには息切れ感がみられるとの声があるが、化粧品、高額商品は引き続き好調。インバウンドも引き続き堅調。          ✓ スーパーでは、雨が多かったことなどの天候要因により来店客数が減少するなど低調な動き。消費者の生活スタイルの多様化により、時短等に対応するカット野菜、総菜、冷凍食品等が堅調に推移。          ✓ コンビニエンスストアは、来店客数の減少を客単価の上昇で補う傾向が継続。雨の日が多いなど天候の影響から来店客数等がさらに減少。カウンター商材や総菜等は引き続き好調。健康志向や高付加価値を求める声も。          ✓ 乗用車販売は、一部で新型車効果が継続しつつも、一巡から一服感。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>96.1(97.4)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.64(1.60)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.1%(0.9%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>0.8%(1.6%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉                  生産は、輸送機械、電子部品・デバイスが緩やかに増加。                  個人消費は、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどが堅調であることから、緩やかに持ち直し。</p>			
<p>個別の動向                  (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかに増加している                  ✓ 主力の輸送機械は、自動車部品が海外向けを中心に好調なことから、緩やかに増加。                  ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に緩やかに増加。                  ✓ 金属工作機械は、部品不足の影響がみられるものの、国内、海外ともに自動車・一般機械向けなどが好調なことに加え、省人化対応への需要が高いことから、緩やかに増加。</p> <p>○設備投資は増加している                  ✓ 製造業は、合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品やファインセラミックスでは新製品対応や能力増強の動き。大企業、中小企業ともに、投資意欲が高い。非製造業では、ドラッグストア、スーパー、コンビニエンスストアで新規出店や改装の動き。                  ✓ 製造業、非製造業ともに、人手不足を背景とした省人化投資への動き。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる                  ✓ 製造業では、大企業は不足感が緩和しているものの技術者を求める声が多く、中小企業では不足感が継続。非製造業では、百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続しており、募集をしても人が集まりにくい状況。</p> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している                  ✓ 百貨店は、催事による効果がみられ、高額品や特選品に動き。インバウンド消費は、引き続き好調に推移。スーパーでは、鮮魚の高値が続くものの、野菜や肉などの生鮮食品に動き。                  ✓ コンビニエンスストアでは、中食、日配品が好調。ドラッグストアでは、季節商品が伸び悩み。家電販売店では、季節家電や白物家電が好調。                  ✓ 小売業の各業態間における競争が激化。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数                  (H22=100)                  ※季節調整値</p> <p>122.8(117.2)</p>	<p>有効求人倍率                  ※季節調整値</p> <p>1.93(1.86)</p>	<p>百貨店・スーパー                  販売額(前年同月比)</p> <p>0.5%(0.2%)</p>	<p>コンビニエンスストア                  販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.0%(0.3%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 中部(北陸)

全体景況	<p><b>〈改善している〉</b>                  生産は、一部で人手不足等の影響も、化学、電子部品・デバイスを中心に高水準で推移し、個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調で、緩やかに持ち直している。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産は高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 化学は、ジェネリック医薬品や受託製造が増加し高水準で推移しており、今後さらに増産が見込まれる。</li> <li>✓ 電子部品・デバイスは、自動車向けが好調、高水準を維持し、スマホ向けは足下で減少がみられるものの来期は増産が見込まれる。</li> <li>✓ はん用・生産用・業務用機械は、一部では、人手不足等による影響がみられるものの、海外向け中心に半導体製造装置や自動車向け工作機械などが好調で、増加傾向。</li> </ul> <p>○設備投資は増加している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業は、生産能力増強や新製品対応に加え、ロボットやIOT設備などの生産性向上を目的とした投資も積極的に行われている。</li> <li>✓ 非製造業は、新規出店や店舗改装に加え、人手不足に対応した投資を行う動きもみられる。</li> </ul> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業は、派遣社員の確保が困難なことから正社員に切り替えて募集する企業がみられる。また、一部企業では人手が無いため受注ができない等の声もある。</li> <li>✓ 非製造業は、必要人員が集まらない厳しい状況が続いており、省力化設備や高齢者採用などで対応している。</li> </ul> <p>○個人消費は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 百貨店は、高額品には好調な動きが続いているものの、客数の減少がみられることから、売上げは前年を下回っている。</li> <li>✓ スーパーは、競合などから客数は減少傾向となっているものの、店舗改装やイベント効果がみられ、価格が高くても価値を見極めて購入する動きもあり、客単価は堅調に推移している。</li> <li>✓ コンビニエンスストアは、競合などから客数は減少しているものの、購入点数の増加や高付加価値商品に需要がみられるなど客単価は上昇している。</li> <li>✓ ドラッグストアは、高付加価値商品が堅調に推移し、引き続き食料品中心に好調で、客数・客単価いずれも前年を上回っている。</li> </ul>			
関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	有効求人倍率 ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	132.6(128.3)	1.98(2.01)	▲1.4%(▲0.9%)	▲0.6%(1.1%)

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。



# 近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉                  生産は、はん用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、衣料品、食料品などに弱い動きが見られるものの、免税品や高額品が引き続き好調で緩やかに改善している。</p>			
<p>個別の動向                  (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動き                  ✓ はん用・生産用・業務用機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が好調。                  ✓ 電気機械は、車載用を始めとするリチウムイオン蓄電池が高水準で推移。                  ✓ 電子部品・デバイスは、自動車向けコンデンサが好調。                  ✓ 輸送機械は、国内向け乗用車、自動車部品ともに堅調。                  ✓ 生産ラインをフル稼働しても受注に追いつかないとの声や、受注は好調だが部品の確保が難しいとの声も聞かれるものの、総じて生産は高水準で推移している。</p> <p>○設備投資は増加している                  ✓ 製造業では、設備の維持・更新を中心に、一部で市場の需要増に応えるため、生産能力の増強の設備投資が行われている。また、人手不足を補うための自動化や研究開発への投資がみられる。                  ✓ 非製造業では、倉庫を始めとする物流施設への投資、小売業で需要拡大のため新規出店や店舗改装がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善しており、労働需給の引き締まりがみられる                  ✓ 小売業やサービス業では、パート・アルバイトの確保が困難であり、製造業を中心に技術者が集まりにくいなど人手不足が続いており、採用は新規・中途ともに競争が激化している。                  ✓ 対策として、省力化の推進、パートの短時間勤務の導入、多様な人材(高齢者、外国人人材)の活用などがみられる。                  ✓ 賃金は、人材確保のためのベースアップや定期昇給の実施がみられる。</p> <p>○個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している                  ✓ 百貨店は、免税品や高額品の購入が好調を維持しているものの、衣料品、飲食料品の落ち込みが響き、弱い動き。スーパーは、他業種との競合が激化し低調。                  ✓ 家電は、ゲーム機や携帯電話に加え、高機能・高単価の白物家電が好調。乗用車は、軽乗用車が好調も小型車、普通車の低調を補えず減少。                  ✓ インバウンド消費は、リピーターや個人客が売上の上昇に寄与し、好調を維持。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数                  (H22=100)                  ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">107.1 (105.9)</p>	<p>有効求人倍率                  ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.58 (1.55)</p>	<p>百貨店・スーパー                  販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">▲2.0%(▲0.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア                  販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">0.1%(2.2%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 中国

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉 生産は、主要業種で高い稼働率が継続し全体として横ばい。個人消費は、例年より雨の日が多く季節商品が伸び悩み、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばい  <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 鉄鋼は、フル操業が続き、横ばい。</li> <li>✓ 化学は、高稼働が継続し、横ばい。</li> <li>✓ 自動車は、稼働日数減などでやや減産だが、フル操業で好調が続く。</li> <li>✓ はん用・生産用・業務用機械は、受注好調で、増産。</li> <li>✓ 電子部品・デバイスは、一部需要の落ち込みもみられるものの堅調で横ばい。</li> </ul> <p>○設備投資は持ち直している  <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業では、引き続き、受注増加への対応に向けた能力増強、省力化設備の導入、既存設備の維持更新が進められている。</li> <li>✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や既存店のリニューアル、既存設備の維持更新が進められており、インバウンド対応のための投資も計画されている。</li> </ul> <p>○雇用情勢は着実に改善しており、労働需給の引き締まりがみられる  <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 正社員・パートを問わず、製造業では現業職や技術職、非製造業では販売員など様々な職種で人員が不足している。</li> <li>✓ 今後の雇用については、売り手市場で新規採用が困難なため中途採用を継続して実施していく、女性や高齢者、外国人の積極的な活用を進めていきたいという声が聞かれた。</li> <li>✓ 従業員やパートの定着・確保のため賃上げを実施した企業もある。</li> </ul> <p>○個人消費は持ち直しの動きに足踏み感がみられる  <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 百貨店では、化粧品、高額品やインバウンドは好調。GW明けから天候が悪く客数が減少し、衣料品をはじめ低調。</li> <li>✓ スーパーでは、半調理品や化粧品、ランドセルは好調。衣料品などが苦戦し、他業態との競合で価格競争が激化。</li> <li>✓ ホームセンターでは天候要因やネット販売の利用、他業態との競合などにより客数が減少し、伸び悩み。</li> <li>✓ 家電大型専門店とドラッグストアでは、高付加価値商品が選ばれており売上げを伸ばしている。</li> <li>✓ 乗用車販売は、新車効果が一服したことなどにより前年を下回った。</li> </ul> </p></p></p></p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">101.1 (98.9)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">1.84 (1.81)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">▲3.0% (▲0.3%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">▲0.9% (1.5%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

## 四国

全体景況	<p>〈緩やかに持ち直している〉</p> <p>生産は、パルプ・紙・紙加工品、電気機械、金属製品などが需要堅調で、緩やかな持ち直しの動き。個人消費は、一部に天候等の影響がみられたものの、持ち直しの動き。</p>			
個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ パルプ・紙・紙加工品は衛生用紙などが、電気機械は光電変換素子などが、それぞれ堅調な外需に支えられ、引き続き高水準で推移。</li> <li>✓ プラスチック製品は、汎用フィルム製品が食品包装などの用途で堅調であるなど、持ち直しの動きがみられる。</li> <li>✓ 化学・石油石炭製品は、樹脂製品は需要旺盛であり、横ばいで推移している。</li> <li>✓ 輸送機械(造船)は、受注に改善の兆しがみられるが、各社の操業度にばらつきがあるなど、一部に弱い動きもみられる。</li> </ul> <p>○設備投資は持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業では非鉄金属、パルプ・紙・紙加工品、はん用・生産用機械を中心に増産・新規受注対応といった積極的な投資計画がみられる。非製造業では、小売で店舗の新設や改装、情報システムの更新などの前向きな計画も。</li> </ul> <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 製造業・非製造業ともに、一部雇用の改善がみられるものの、いまだ多くの事業所で雇用者数が不足している。特に、小売や建設においては、事業の拡大を背景にその傾向が顕著。</li> <li>✓ 人手不足感が強い事業所では、新規採用の拡充や中途採用の募集、派遣の活用などのほか、賃金などの処遇面での改善もみられる。このほか、働き方改革の一環で残業時間縮減などの意識は高まっているものの、やむなく残業増で対応する事業所もみられる。</li> </ul> <p>○個人消費は持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 百貨店は、化粧品や高額品に動きがみられたものの、主力の衣料品は気温の影響で夏物衣料が伸び悩み。スーパーは、主力の飲食料品で総菜、冷凍食品などが堅調に推移した。コンビニエンスストアでは、総菜、デザートなどが好調に推移した。</li> <li>✓ 家電販売は、携帯電話が伸び、4Kテレビや白物家電の高単価商品は堅調。乗用車販売は、軽乗用車に持ち直しの動きがみられるものの、普通車、小型車などは新車効果の一巡から持ち直しの動きに一服感。</li> </ul>			
関連指標	鉱工業生産指数 <small>(H22=100) ※季節調整値</small>	有効求人倍率 <small>※季節調整値</small>	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)
	93.2(95.0)	1.54(1.53)	▲1.5%(1.1%)	▲1.4%(0.5%)

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

# 九州

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉          生産は、高い水準を維持している。設備投資は、増産に向けた投資及び新規出店への投資等がみられる。個人消費は、衣料品等の動きは鈍かったものの高額品及び化粧品等の動きは堅調。</p>			
<p>個別の動向  <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は横ばい傾向          ✓ 輸送機械は、海外向け普通乗用車が好調で、全体としては高い水準を維持している。          ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に高い水準を維持している。          ✓ 素材関連は、化学は電子部材向けに、鉄鋼は自動車、建材向けに好調な生産が続き、石油・石炭もフル生産が継続している。          ✓ 電気機械は、自動車向けの受注は好調で増産しつつも、スマートフォン向けは海外で在庫調整が行われ受注減となっている。</p> <p>○設備投資は増加している          ✓ 製造業では、国内外の受注に対応するための増産に向けた投資がみられた一方で、反動減や先送りもみられた。          ✓ 非製造業では、店舗の改修やリフォーム、新規出店のための投資の他、システム改修や人材育成のための投資がみられた。</p> <p>○雇用情勢は改善している          ✓ 有効求人倍率が過去最高の水準で推移しており、製造業、非製造業ともに人材不足が慢性化。          ✓ 海外人材確保に努める企業、人材不足の対策として機械化導入を進める企業、また、働き方改革の一環として、残業抑制等の各種取り組みを行う動きがみられた。</p> <p>○個人消費は持ち直している          ✓ 百貨店では、天候不順等から衣料品や食料品の動きが鈍かったものの、外商及びインバウンド需要により、宝飾・貴金属等高額品及び化粧品、医薬品等の動きは堅調。コンビニやドラッグストアは新規出店効果がみられる。          ✓ 家電販売は、大型の冷蔵庫、洗濯機、4Kテレビ等単価の高い商品の動きが良く、高い水準のまま推移。          ✓ 住宅関連は、太陽光発電や蓄電池設置の動きが増加し、棟当たりの単価が増加傾向。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数  <small>(H22=100)  <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">109.8(108.9)</p>	<p>有効求人倍率  <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">1.49(1.47)</p>	<p>百貨店・スーパー          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">▲2.1%(0.8%)</p>	<p>コンビニエンスストア          販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue; font-weight: bold;">0.7%(3.0%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。

# 沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費は改善が続いている。また、設備投資も持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は横ばいとなっている          ✓ 鉱工業生産指数は管内の主要な製造業である食料品工業等で持ち直しの動きが見られるものの、全体としては横ばい。          ✓ ヒアリングにおいては、需要増等の理由により、短期、長期の見通しで増加との回答が多かった。</p> <p>○設備投資は持ち直している          ✓ 平成30年度の設備投資額は、製造業は前年度より増加しており、非製造業は減少しているものの、前期より改善されている。          ✓ 一部には、今秋、来夏にオープン予定の商業施設に対抗するため、店内の改装、テナントの入れ替えを前倒して実施するとの声が聞かれた。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている          ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍以上を維持しており堅調に推移している。          ✓ ヒアリングにおいても、7割以上の事業者が人手が不足していると回答しており、雇用需要の増加を要因とした人手不足が続いている。          ✓ IT導入等による生産性向上や賃上げ、正社員化等により人手不足対策に取り組んでいる企業も見られる。</p> <p>○個人消費は改善が続いている          ✓ 百貨店・スーパーを中心に堅調に推移しており、短期、長期の見通しでは全体的に客数、客単価とも増加、上昇と見られている。          ✓ 一部には、一手間省ける加工食品を買う人が増加したことから、来客数が変わらなくても客単価、販売価格が増加したとの声が聞かれた。          ✓ 観光は、国内は麻しん(はしか)患者の発生に伴う影響等がみられたが、海外はクルーズ船の寄港回数が前年同月比で増加したこと等により、入域観光客数が68ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; background-color: #f8d7da;">98.8(91.1)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; background-color: #d1ecf1;">1.12(1.14)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #d1ecf1;">1.2%(4.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; background-color: #d1ecf1;">0.7%(3.0%)</p>

※指標はすべて5月の数値、括弧内は2月の数値(鉱工業生産指数は4月、括弧内は1月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額(前年同月比)は、九州・沖縄の数値。